

?と!が生まれる 自然環境

子どもの自然に対する好奇心や関心を呼び起こすためには、園庭の環境作りをどのように考えていけばよいのでしょうか。

監修＝大澤 力(東京家政大学教授)

自然を取り込む園庭作り vol.2

作業は子どもの目の前で

執筆＝内野彰裕(東京都・東京ゆりかご幼稚園園長)

老朽化した滑り台を撤去した跡地に、ツリーハウスを設置することになりました。でも、「ただ市販のツリーハウスを置くだけでよいのか?」、「園庭の固定遊具が作られる過程や、大人が汗流して作業に没頭する姿を見せたい!」そんな2つの思いから、園長による築山「冒険の丘」作りが始まりました。

日中、園長と2人のバスの先生とで築山作りに励んでいると、「いつあそべるようになるの?」「先生、すごい汗だね」とあそんでいる子どもたちも気になる様子。3月下旬から始めた作業は、雨続きの影響もあって、5月中旬にやっと完成。

時間はかかったけれど、目を輝かせてあそびに夢中になる子どもたちの姿、そして「おもしろい遊具を作ってくれてありがとう!」という言葉に、作る姿を見せることで、遊具に「込められた思い」を子どもたちが感じてくれたという満足感が広がりました。



パレット(輸送などに使う荷役台)を4枚×6段重ねにした土台の上にツリーハウスを設置。周囲にダンブ10台分の土を盛る。



さまざまな樹木の間伐材(寄付)を使ったステップは、チェーンソーで切り1本ずつ埋め込んだ。

昔は近所の空き地にあったような土管をあえて使用。基地にしたり、ヒンヤリ感を楽しんだり。



発達に応じてさまざまな登り方ができるよう、360度工夫を施した「冒険の丘」。リスクを予見し、安全にあそぶすべてを身につけてほしい。



滑り台の手すりには雨どい、滑る面にはフローリングシートを使用。

斜面や周辺には、リンゴ、サクランボ、ヤマモモ、クワ、クリ、甘夏、オリーブなどの食べられる果樹を植えた。



※このページでは、「いつでも自然とふれあえる園庭」を目指して、保護者と子どもと保育者で園庭改造に乗り出した東京ゆりかご幼稚園の実践を、1年間で紹介します。来月は「労作を体験できる自然環境」です。